



パネルディスカッションの様子

## 公共交通に新たな価値づけを！

公共交通研究小研究会では、「公共交通に新たな価値づけを！～ウィズコロナ時代の公共交通ことづくり～」をテーマとして、会場とオンライン併用にてシンポジウムを開催した。参加者は202名（会場参加24名）であった。まず「新型コロナウイルス感染症拡大前後における移動需要の変化等に関わる調査の結果と今後の交通政策への示唆」と題して国土交通省中部運輸局交通企画課長の石井 信氏に基調報告を、次に岐阜大学社会システム経営学環 教授の高木朗義氏より「公共事業やまちづくり活動への新しい価値づけ」と題して基調講演をいただいた。その後のパネルディスカッションでは、アイシンの加藤博巳氏、神姫バスの佐藤匡氏、パブルックハーツの水谷香織氏の取組みを紹介いただき、『新たな価値づくり』にむけて皆（交通事業者・利用者・地元住民・地元企業など）で楽しむ環境づくり・共創づくりが重要であるなど活発な議論がなされました。

【報告者】 大同大学 樋口恵一